

第1回 北見市地方創生総合戦略策定委員会 議事要旨

- 1 日時 令和元年11月28日(木) 午後2時～午後3時30分
- 2 場所 北見市役所北2条仮庁舎 3階 庁議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 8名全員出席
 - 中村 研二 委員長 (学・教育機関)
 - 小原 光一 副委員長 (産・産業界)
 - 中嶋 健一 委員 (官・関係行政機関)
 - 森本 淳志 委員 (金・金融機関)
 - 武田 研二 委員 (労・労働団体)
 - 藤田 慎也 委員 (言・メディア)
 - 西田 篤史 委員 (士・士業)
 - 住佐 春佳 委員 (公募市民)
 - (2) オブザーバー
 - 玉利 孝二 北海道オホーツク総合振興局地域創生部地域政策課地域政策係主任
 - (3) 事務局
 - 船戸 清司 北見市企画財政部長
 - 伊集院健介 北見市企画財政部次長
 - 工藤 祥久 北見市企画財政部企画政策課長
 - 吉次 直人 北見市企画財政部企画政策課政策係長
- 4 議事
 - (1) 開会
 - (2) 委嘱状交付
 - (3) 市長挨拶
 - (4) 委員紹介
 - (5) 議題
 - ①委員長及び副委員長の選出について
 - ②次期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた国・道の動きについて
 - ③現行の北見市地方創生総合戦略について
 - ④第2期北見市地方創生総合戦略について
 - (6) その他
 - (7) 閉会
- 5 会議の公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 なし
- 7 議事内容の要旨
 - (1) 開会(午後2時)
略

(2) 委嘱状交付

略

(3) 市長挨拶

略

(4) 委員紹介

略

(5) 議題

① 委員長及び副委員長の選出について

中村委員を委員長に互選

市長から中村委員長へ諮問書を手交

小原委員を副委員長に指名

② 次期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた国・道の動きについて

事務局から配布資料1に基づき説明

③ 現行の北見市地方創生総合戦略について

事務局から配布資料2、3、4及び5に基づき説明

④ 第2期北見市地方創生総合戦略について

事務局から配布資料6に基づき説明

主な意見

(小原副委員長)

- ・ 商工会議所で実施したアンケートでは、例年運営上の課題として人手・人材不足についての回答が多い。地方都市にとっては人口減少問題の解決が必要であり、産業の活性化により働く場を確保し、人口流出を緩和する施策展開が望ましい。

(中嶋委員)

- ・ 有効求人倍率は1倍を超えているが、介護や医療、運輸などの産業は人手不足であり、求職者と雇用主のミスマッチが続いている。また、求職者数が減少する中で、高齢者の求職者については、増加傾向にあるため、ミスマッチ解消につながる施策があればと考えている。

(森本委員)

- ・ 地域の魅力度を高め、若年層が札幌などの都市圏へ流出することを防ぐことが重要である。雇用強化としては、北見市が推進しているテレワークや企業誘致に引き続き取り組み、かつ、起業を促進する施策を取り入れていければいいのではないか。また、順調産業である農業分野については、地元産野菜の域内流通を促進するなど、農商連携が深まる取組を進めることが望ましい。

(武田委員)

- ・人口増加のためには、まちの住みやすさという点はもちろん重要だが、北見市は北見工業大学や日本赤十字北海道看護大学があるのだから、学生に就職してもらい、定住してもらうことが重要である。若者の定住を促すためには、大型の商業施設や、遊戯施設など余暇に活用できる施設が必要だと考えられる。

(藤田委員)

- ・例えば小樽市では、昔から観光産業が盛んなわけではなかったが、小樽運河を軸に札幌周辺の観光地として盛り上がりを見せている。北見市も道東の中心にあり、女満別空港も近く、観光業を中心とした産業について成長の余地があり、移動人口の増加については潜在能力があると思うので、将来的な戦略を検討していくといいのではないだろうか。

(西田委員)

- ・付き合いのある企業で話を聞くと、従業員の平均年齢が60歳という会社が多く、将来戦力となる年齢の従業員がいないという話を聞く。武田委員と重複する話になるが、北見工業大学や日本赤十字北海道看護大学の優秀な人材をいかに北見に残すかを検討すべきだろう。

(住佐委員)

- ・自身も子育てをしている主婦として感じていることだが、北見市は他地域から転勤して来る人が多いことから、日中時間のある女性が働き手として参画することや、道外でのネットワークを活用して北見市の魅力発信に協力してもらうことなどはできないだろうか。また、幼児教育・保育の無償化に伴い、希望の保育園に入れないという声が多く、保育士の不足などもあると思うが、子育て支援の強化も盛り込んでいただきたい。

(中村委員長)

- ・各委員から出た意見のように、創業支援、テレワークやサテライトオフィス、観光などの活用できる資源を掘り起こすことで、市内の経済活性化が促進される可能性があると考えられる。

(森本委員)

- ・スタートアップ支援を進める団体は多く、サポート機関の設置はもちろん重要だが、けん引する中心人物が必要となる。オホーツク管外や道外から積極的にアイデアや行動力のある人材を誘引して事業を実施していただきたい。

(中村委員長)

- ・森本委員の意見のとおり、ハード機能の充実だけではなく、仕組づくりが重要であり、仕組の構築に対しての一定の投資は必要と思われる。経済界や農業団体、水産団体などが商業団体と連携することが求められる。

(小原委員)

- ・商工会議所では、昨年から道内私立大学の協力を得て、管内の6商工会議所で連携して、20社以上の管内地元企業が参加する合同説明会を実施し、UIJターンの学生を確保する取組を進めている。今後は、取組の拡大や情報発信の新たな手法について検討している。

(中村委員長)

- ・次回の委員会開催に向け、本日委員から出た意見を踏まえながら、第2期北見市地方創生総合戦略の策定を進める。策定に当たり、北見市人口ビジョンは、目標人口を維持し、統計値等の更新にとどめ、現行戦略の4つの基本目標については、原則として次期戦略でも維持し、KPI等については、時代の要請などに柔軟に対応するなど、必要な見直しをする方向で進めたい。また、KPI等については、次回以降の委員会で事務局から提案いただく予定である。

(7) その他

事務局から第2回の委員会を12月中に開催することを説明

(8) 閉会 (午後3時30分)